

2024年度最終審査結果 受賞テーマとデザイン提案

テーマ リング製本とオンデマンド印刷の ワンストップ提供体制 企業：富士リプロ株式会社（千代田区）	最優秀賞	提案 リング製本とオンデマンド印刷技術を 応用した未開拓領域への製品提案 提案者：藤井誠、山田奈津子（ディノーム）
 「リング製本」とは穴を開けてリングで綴じる製本形式。360° 開き、上下左右様々な方向でつながることができる。他の製本形式と比べると、可動域が広く、機能性が高いのが特徴。社内で一貫したリング製本が可能であり、特色の印刷が可能なオンデマンド印刷機なども導入済み。		富士リプロの事業の一部であるリング製本とオンデマンド印刷の技術を応用してつくる新領域での製品の提案。 
テーマ 金属切削による高精度な軸物加工 企業：株式会社開工精機製作所（板橋区）	優秀賞	提案 切削加工技術を軸とした事業再創造 提案者：清水寛、井上弘介
 金属材料を削って加工する技術。金属丸棒材料や鋳造材から、主に旋盤と呼ばれる工作機械を使用して軸形状の部品を削り出す。ボルトやジョイント等の手のひらサイズの部品や、全長500mm程度までのシャフト形状の部品加工が得意。		金属切削技術を活かした組み替え可能な筆記具「SHAFT CRAFTS」。高精度嵌合と金属削り出しならではの意匠性を強みとし、新たなビジネスモデルとしてBtoC市場での販売とBtoB向け加工サンプル提供を同時展開。 
テーマ ベルトに用いられる伸縮できる 本革の加工技術 企業：有限会社長沢ベルト工業（葛飾区）	優秀賞	提案 「伸びる本革ベルト」の技術を活用した 家具ブランドの提案 提案者：佐藤宏樹（KOKI SATO STUDIO）
 本革で伸縮するベルトを独自開発。帯幅は自由に変えられ、本革にエンボス加工やバフ研磨による艶上げなども可能。革の裁断～縫製、タグ付けまで作り手が一貫製造している。また、ベルトとして使えない部分が余り革として残る現状があり、サステナブルの観点からも新しい活用方法を模索している。		独自技術の伸びる本革ベルトを活用し、その世界観を広げるためのスツールの提案。長年ベルトを作り続けてきた中で培われた技術力とブランドを広げるためのコンセプトプロダクトとして、伸縮するレザーという特徴的な素材を活かしたテンセグリティ構造を取り入れてデザインした。 

2025年度 東京ビジネスデザインアワードの流れ(予定)

企業からテーマを募集 (4月10日～6月25日)	都内ものづくり中小企業から、自社保有の高度な技術や特殊な素材などを「テーマ」として募集。
	
テーマ発表 (9月)	審査委員会が10テーマ程度を選定し、HP等にて発表。
デザイナーからの提案募集 (9月～10月)	選定テーマに対し、デザイナーがあらゆる可能性を検討し、新たな用途開発を軸とした事業全体のデザインを提案。
	
一次審査・二次審査 (11月)	一次審査・二次審査を経て、テーマ毎に企業とデザイナーのマッチングが成立したものを「テーマ賞」として選出。
	
最終審査・表彰式 (2026年2月)	テーマ賞の中からデザイナーの公開プレゼンテーションにより、「最優秀賞」・「優秀賞」を決定。